

BIBLE + MESSAGE

あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。

(レビ記 19章 18節)

キリスト教というと「隣人愛」という言葉をイメージされる方が多いかもしれません。それは、神がかつて、イスラエルの人々に命じられた教えでした。イエス・キリストもまた、これを大切な教えとして、弟子たちに語られました。

「隣人（となりびと）」とは、私たちの周りにいるすべての人たちを指します。その一人ひとりを愛することが隣人愛です。しかし、案外と見落としがちなのは、「あなた自身のように愛しなさい」と命じられている点です。まず、自分自身を愛することを知らなければ、本当の意味で隣人愛を実践することはできません。自分を愛するとは、どのようなことなのでしょう。それは、決して自分を甘やかすことではありません。自分のいのちを尊重し、一日一日の生活を大切にすることです。しかし、それだけではありません。愛の源であられる神のもとに立ち返ることこそ、もっとも自分を愛することであると聖書は教えているのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アビタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前10時～10時45分 【礼拝】日曜：午前11時～12時半
【午後の集会】日曜：午後3時～4時半 【聖書研究会】木曜：19時半～21時

聖書を読んだ日本人

キャラメルやチョコレートでおなじみのお菓子メーカー森永製菓。その創業者である森永太郎氏が熱心なクリスチャンであったことがご存じだったでしょうか？

太郎は佐賀県伊万里の陶器問屋の息子として生まれました。しかし彼が6歳の時、父親が病死したこともあり、太郎は親戚中をたらい回しにされて育てられるようになります。やがて彼は、伯父の家に引き取られるのですが、そこで商人としての心構えをたたき込まれることになるのです。成長した太郎は、陶器商に務めますが、24歳の時にアメリカで焼き物売るために渡米します。しかし、まったく上手くいきませ

ん。借金を抱えた太郎は、公園のベンチに座って、ひとり悩んでいました。すると、そこに高齢の婦人が通りかかり、ハンドバッグからキャンディーを取り出して彼に勧めるのです。それを食べた太郎はあまりのおいしさに驚き、洋菓子職人になることを決意します。

さて、太郎は早速、菓子づくりの見習いの仕事を探しますが、当時は人種差別が強く、日本人の彼が望む仕事はなかなか見つかりません。そんななか、オークランドに住むクリスチャンの老夫婦が彼を引き取り、大変温かく迎え入れたのです。彼らの愛に触れた太郎はキリスト教に興味を持ち、教会に通うようになり、ついに洗



森永 太郎
(もりなが たいちろう)
1865年～1937年

礼を受けたのでした。

洋菓子の技術を身につけた太郎はその後、さまざまな出来事を経て、森永製菓の前身となる森永西洋菓子製造所を東京の赤坂で設立します。そして、あの有名な「ミルクキャラメル」の大ヒットにより、森永の名は全国に広まっていくのです。彼は宣伝のために屋台式の車を作り、お菓子を積んで各地を巡るのですが、この屋台の屋根の看板には「キリスト・イエスは罪人を救わんために世に來たりたまえり」という聖書のことばが記されています。

